

## 吉田財団設立40周年記念事業

## 令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会  
理事長 山倉修一 殿

学校名	福岡県立久留米高等学校
学校長名	鈴木 寛
報告者	本田 英靖
寄贈品	1. テーブル (数量:1、型式:R20(変形天板) MD-SI(脚)、メーカー:クレス) 2. スツール (数量:8、型式:ヤヤ Bランク生地、メーカー:クレス)
《 振り返り 》	
教育的課題	1. 本校の生徒は優しく素直で真面目な一方、自信を持って新しいことに挑戦するという点で課題がある。 2. 交流活動により体験活動の場を増やし、挑戦することにより成功体験を積み重ねる等、生徒の自己肯定感を育み機会がより求められる。
教材活用の狙い	1. 生徒の発表、生徒の学び合い、生徒同士の議論、教師と生徒の議論等、交流活動等の体験的活動を実施できる環境を整備する。 2. 心が和むようなテーブルや椅子を多く設置し、より多くの生徒が活用しやすい交流の場を提供する。
目的達成の為の工夫	1. 教材を活用し、交流活動を通じて本校生徒だけではなく保護者等が本校の教育活動を体験できる場で活用する。 2. 本校生徒が地域の方々と交流できる行事の場で活用する。
《 教材活用の効果・成果 》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	1. 生徒と教師、生徒同士等が交流できる空間とづくりができ、対話や交流を通じ、生徒が自己選択・決定をする機会を多く得ることができている。 2. 異学年生徒間の交流や生徒発表披露の場として活用でき、成功体験が積み重ねられ、生徒の自己肯定感を育むことに貢献できている。 3. 本校校舎には多くの木材が使用されており、本校校舎がより和やか場となり、生徒の居場所づくりに役立っている。
対象者・利用頻度	1. 生徒、教職員は毎日活用。 2. 年4回程度の中学生を対象とした行事で活用。 3. 2ヶ月に1回程度の保護者が参加できる学校行事で活用。
目的達成状況	課外活動等の多くの教育活動での交流活動により体験活動の場が増えることで生徒の自己肯定感を育み、本校の教育効果を高めることに繋がっている。
教育的効果についての所見等	教材の配置場所での生徒の活動が増え、本校の教育目標の達成に貢献している。

## 活用状況の写真等(当日の様子など)

<放課後の様子>



<中学生・保護者対象の行事での様子>



<校内ミニコンサートの様子>



### 今後の活用見通し・課題

体験活動ができる環境づくりができ、本校の教育効果が高まっている。今後は、地域の小・中学生に長期休業期間中等に学習支援を行う事業での活用等、活用の幅を広げたい。